

学校全体で
授業改善に取り組むために

小学校版

授業づくりの基礎・基本 (実践編)

平成26年2月
岡山県総合教育センター



授業づくりの基礎・基本 —学校全体で

全ての子どもに

力が付く

授業づくりを!

力が付いていない場合は、
補充学習を!

Step4

授業展開の構想
—どのように教えるか—

Step3

単元(題材)観・指導観の
明確化
—どのように組み立てるか—

Step1

単元(題材)
目標の設定
—何を教えるか—

Step2

児童生徒観の明確化
—どのような実態か—

学習環境づくり・学級づくり

学びの基盤となる学習規律の徹底
を図る。

児童が自信をもって学習に取り組
むことができる支援を行う。

分かりやすく指導するための提示
や発問を工夫する。

児童の「居場所」をつくる、「絆」
づくりの場を確保する。

授業改善に取り組むためにー

本ガイドブックを、若手教員の授業づくり、授業研究における研究協議、先輩教員による指導・助言等の際に活用し、学校全体で授業改善を図っていきましょう。



学習環境づくり・学級づくり……………	1
授業づくりの「4つのStep」……………	3

国語

Step 1 単元（題材）目標の設定……………	5
Step 2 児童観の明確化……………	7
Step 3 単元観・指導観の明確化……………	9
Step 4 授業展開の構想……………	11

算数

Step 1 単元（題材）目標の設定……………	13
Step 2 児童観の明確化……………	15
Step 3 単元観・指導観の明確化……………	17
Step 4 授業展開の構想……………	19

学習環境づくり・学級づくりの参考資料……………	21
-------------------------	----

学習環境づくり・学級づくり

学びの基盤となる学習規律の徹底を図る。

児童が落ち着いた雰囲気の中で学習に集中することができる環境づくりが必要です。そのためには、学びの基盤となる学習規律を児童に身に付けさせることが大切です。



POINT 1

●「授業規律」の徹底を図る。

学習用具の準備、鉛筆の持ち方、授業中の返事、正しい姿勢など、具体例を示し、繰り返し指導します。

POINT 2

●「生活規律」の徹底を図る。

時間を守ること、あいさつ、持ち物の整理・整頓、掃除など、重点項目を絞って指導します。

【参考】：『学習規律実践事例集』（2013，岡山県教育庁義務教育課）

分かりやすく指導するための提示や発問を工夫する。

児童の興味・関心を引き出し、分かりやすく指導するためには、視覚に訴える工夫が有効です。また、思考や理解を深めさせるためには、情報の焦点化と明確な発問が大切です。



POINT 1

●ICTを活用して、情報の拡大提示を行う。

実物投影機で教科書や教具、手元の動きなどを大きく映して指示を行うことで、効率良く授業を進めることができます。

POINT 2

●情報を焦点化し、発問を工夫する。

書き込みや指し示しにより、必要な情報に注目させるとともに、明確な発問で思考を促します。

【参考】：『保存版 日常的に気軽にICT活用ハンドブック』（2009，岡山県総合教育センター）

そのために必要なことは？

児童が自信をもって学習に取り組むことができる支援を行う。

全ての児童が自分のもち味を生かしたり、得意な部分を伸ばしたりすることができるよう、適切な実態把握と自己肯定感を育てる支援が必要です。



POINT 1

●適切な実態把握を行う。

表面に現れた行動のみに注目するのではなく、その背景に潜む要因を推測し、支援方法を考えていきます。

POINT 2

●自己肯定感を育てる支援を行う。

時間的な見通し、活動の見通しを視覚的に示したり、肯定的な態度で接し、具体的な方法を教えたりします。

【参考】：『通常学級における特別支援教育の観点から見た学級経営・授業づくり』（2009、岡山県総合教育センター）

児童の「居場所」をつくる、「絆」づくりの場を確保する。

児童は、主体的に学びを進め、互いに関わり合う中で、認め合い、支え合い、学び合う人間関係を築いていきます。一斉学習やグループ学習で、学び合いの場をつくるのが大切です。



POINT 1

●児童の「居場所」をつくる。

互いの存在を感じられる座席配置の工夫やグループ学習の活用など、聴き合う関係づくりを進めます。

POINT 2

●児童相互が「絆」をつくる機会や場を確保する。

一人一人の違いや良さを生かして、児童相互が関わり合うことで、学びを深める機会や場を確保します。

【参考】：『なぜ、あの子が学びに入れたのかー学び合いを促進する教師の関わりー』（2012、岡山県総合教育センター）

授業づくりの「4つのStep」

授業づくりの「4つのStep」について、道を進んでいく例を用いて説明します。

Step 1 単元（題材）目標を設定する



目標を設定する上では、児童のゴールの姿（目標を達成した姿）を明確にする必要があります。

そこで、学習指導要領で示された目標及び内容を確認し、評価規準の参考資料を参考に評価規準を設定します。



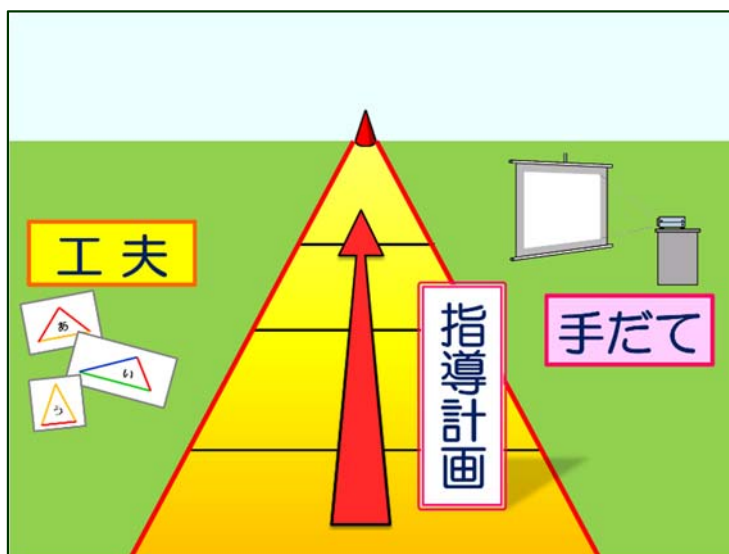
Step 2 単元（題材）に関する児童の実態を確認する

単元（題材）に関する児童のスタートの姿を、普段の学習状況や調査問題等を通して確認します。



授業づくりは、 どのように進めていくの？

Step 3 指導計画の構想，工夫や手だてを明らかにする



何を，どのような順序で，
どのような活動を通して学
んでいけばよいか，その道
筋となる「指導計画」を構
想します。

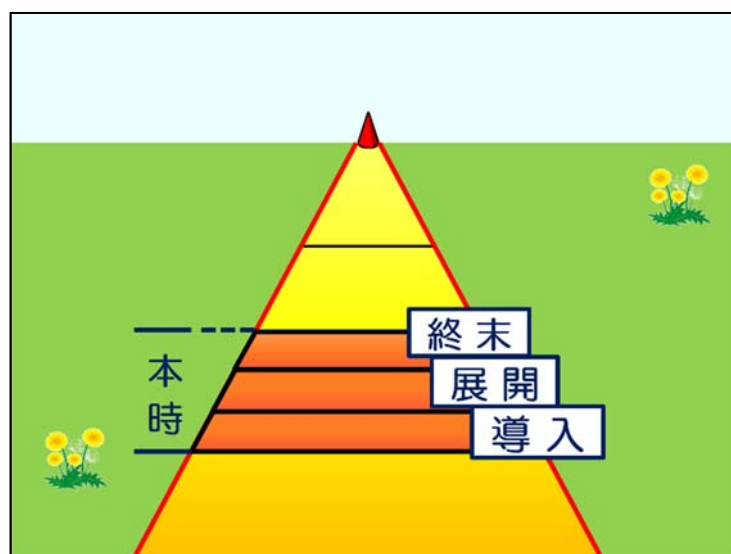
また，児童がスムーズに
学習できるように，指導の
工夫や手だてを明らかにし
ます。



Step 4 本時の授業を構想する

指導計画に則して本時の授
業を構想します。

その際，導入・展開・終末
の学習過程に沿って，学習活
動や教師の指導・支援を想定
するようにします。



※Step1～Step4を踏んで授業づくりをしていきましょう。

Step1 単元（題材）目標の設定 —何を教えるか—

第4学年の授業を例に、授業づくりの流れを説明します。

1 本単元で取り上げる指導事項と言語活動を確認する。

●第3学年及び第4学年

「C 読むこと」

① 指導事項

ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

② 言語活動例

エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。

『小学校学習指導要領解説 国語編』（2008、文部科学省）、p.61～67

本単元で身に付けさせたい力は何か、その力を身に付けさせるためにふさわしい言語活動は何かを、学習指導要領に示されている指導事項と言語活動例を基に確認しましょう。



この単元では、言語活動例エを通して、指導事項ア、ウを指導します。

2 評価規準の設定例を基に、評価規準を設定する。

第3学年及び第4学年 【「C 読むこと」の評価規準の設定例】

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
エ「紹介したい本を取り上げて説明する言語活動」を通じた指導		
<ul style="list-style-type: none"> 紹介したい本について説明するために、本を繰り返し読むなどして、改めて味わったり、新たなおもしろさに気付いたりしながら読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介したい中心的な部分や場面の様子がよく分かるように、軽重や速さを工夫しながら音読し、内容を紹介している。（ア） 自分が選んだ本のおもしろさを説明するために、場面の移り変わりの印象的ところや主人公の性格や気持ちの変化を捉えて読んでいる。（ウ） 	<ul style="list-style-type: none"> 指示語や接続語は、文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりになることを理解し、文章を読んでいる。（イウ）

『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 国語）』（2011、国立教育政策研究所）、p.45

国語の授業では、何を指導し、何を評価するの？

指導事項と言語活動，評価規準の設定例を基に，単元目標と単元の評価規準を設定します。

- 1 単元名 「お気に入りの本の発表会」を開こう
(中心教材：「ごんぎつね」，新美南吉)

今回は，言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること」を具体化し，朗読を取り入れた「お気に入りの本の発表会」を開くという単元を構想しました。



2 単元目標

○お気に入りの本の紹介をするために，好きのところや心がひかれるところを繰り返し読んで味わったり，新たなおもしろさに気付いたりしながら読もうとする。

【国語への関心・意欲・態度】

○場面の様子がよく分かるように，軽重や速さを工夫しながら朗読し，内容を紹介することができる。

【読む能力】

○お気に入りの本を紹介するために，場面の移り変わりの印象的のところや主人公の性格や気持ちの変化を捉えて読むことができる。

【読む能力】

○修飾と被修飾との関係など，文の構成について初歩的な理解をもつことができる。

【言語についての知識・理解・技能】

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①お気に入りの本の紹介をするために，好きのところや心がひかれるところを繰り返し読んで味わったり，新たなおもしろさに気付いたりしながら読もうとしている。	①場面の様子がよく分かるように，軽重や速さを工夫しながら朗読し，内容を紹介している。(ア) ②お気に入りの本を紹介するために，場面の移り変わりの印象的のところや主人公の性格や気持ちの変化を捉えて読んでいる。(ウ)	①修飾と被修飾との関係など，文の構成について初歩的な理解をもっている。(イ(キ))

第4学年国語科年間指導計画(例)
(「C 読むこと」に関する内容の抜粋)

指導事項	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
ファンタジーを読み，感想を述べ合おう			○		◎	
写真を使って報告しよう		◎				○
詩を読もう	◎				○	
「お気に入りの本の発表会」を開こう (本単元)	◎		◎			
お気に入りの物語を説明しよう			○	◎		

本単元で取り上げる指導事項が，これまでどのように指導されてきたか，また，今後どのように発展していくかについて，指導内容の系統を確認することが大切です。



Step 2 児童観の明確化 —どのような実態か—

1 単元に関する児童の実態（学習到達状況）を確認する。



単元の指導計画を構想する際には、必ず単元の目標に関わる児童の学習到達状況を確認しましょう。普段の学習の記録等を基に、**単元の目標に関わる児童の実態**を把握することが大切です。必要に応じて「学習到達度確認テスト（読解力テスト）」を活用するとよいでしょう。

全国学力・学習状況調査の問題の中にも、第6学年以外の学年で活用できる問題があります。



第3・4学年「C 読むこと」の領域に関する調査問題と指導事項の関連

年度	問題	出題の趣旨	指導事項
23	A 7	場面の移り変わりや情景を叙述を基に想像しながら読む。	ウ
24	A 4	場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら音読する。	ア, ウ
24	A 5	百科事典を読み、目的に応じて中心となる内容を捉える。	イ
24	B 3	目的に応じて雑誌を読み、編集者の意図を捉えたり、記事を結び付けたりしながら、自分の考えをまとめる。	イ, ウ

4

小森さんの学級では、一人一人がお気に入りの話を選んで、音読の発表会をすることにしました。小森さんは、次の「ないしょ」という笑い話を選び、音読の仕方を考えています。話の中の①から④までのそれぞれの会話文は、どのような声の大きさで読むとよいですか。『音読の仕方』の中のアかイのどちらかを選んで、その記号をそれぞれ書きましょう。

〔小森さんが選んだ話〕

〔音読の仕方〕

ア はなれた場所から話しかけるように、大きめの声で読む。
イ はかのだれかに聞かれないように、小さな声で読む。

①の会話文： ア イ

②の会話文： ア イ

③の会話文： ア イ

④の会話文： ア イ

※解答は、解答用紙に書きましょう。



左のような調査問題を活用すると、分析的・客観的に学習到達状況を確認することができます。このような問題を事前に児童に解かせ、解答を分析することで学習状況を確認することができます。

児童の実態を どのように把握するの？

2 指導上の立場（児童観）を明確にする。

【Before】

指導上の立場

○児童観

本学級の児童は、明るく素直で、何事にも真面目に取り組んでいる。漢字練習にも意欲的である。物語文を読むことは好きな児童が多いものの、文脈や言葉に即して心情を正しく読み取ることには課題がある。自分の思いを表現することに消極的で、大きな声で音読することが苦手である。



本単元で指導する指導事項について、前単元までの学習状況を捉え、その定着状況に応じた指導上の立場を明らかにすることが大切です。

【After】

指導上の立場

○児童観

本学級の児童は、4月から「4年生に薦める100冊」の中から50冊を読破することを目標に、読書活動に取り組んでいる。「おすすめカード」を作成し、友達にお薦めの本を紹介する活動も行っている。このことにより読書好きな児童が増え、最近では、自分が読んだ本をペアになって読み聞かせをし合う姿が見られるようになってきた。7月の単元「詩を読もう」において、情景を想像しながら音読する学習を通して、描かれている情景について想像を膨らませて音読することはできるようになってきたが、情景や心情を捉えた上で、理由を明らかにして音読を工夫するまでには至らなかった。

指導事項に関する前単元までの定着状況



前単元までの指導では身に付いていない国語の能力が、本単元の指導の重点になります。

指導上の立場（つづき）

課題への手だて

これらのことを踏まえて、お気に入りの本やお気に入りの場面を選ぶとき、また朗読の仕方の工夫を考えるときに、根拠を明確にして自分の考えをもたせることに重点を置いて指導するようになりたい。そうすることで、根拠を明確にするために、好きなところや心がひかれるところを繰り返し読んで味わったり、新たなおもしろさに気付いたりしながら読もうとする児童の姿を実現したい。

Step 3 単元観・指導観の明確化 —どのように組み立てるか—

1 単元の目標や児童の実態を基に、指導計画を構想する。



国語科では、Step 1で取り上げることとした言語活動を単元全体を貫く形で位置付け、その言語活動を通して付けたい力を明確にして指導過程を想定することが重要です。

単元を貫く言語活動を位置付けた指導過程

朗読を取り入れて、お気に入りの本を紹介する

導入	展開	発展
<ul style="list-style-type: none"> ブックトーク（本の選び方、紹介の仕方のモデル提示） 読書経験の想起 	<ul style="list-style-type: none"> お気に入りの場面や人物の行動を見付けながら読む 紹介したい本や場面を選んだ理由を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだお気に入りの本を紹介する
<p>————— 関連する本の並行読書 —————→</p>		

指導過程を想定する際には、まず、単元の終末で「お気に入りの本を紹介する」ために必要な指導事項に関わる国語の能力を明確にします。次に、その能力を単元を通して確実に身に付けられるような指導過程を想定する必要があります。



2 指導の工夫や手だてを明らかにする。






指導過程が想定できたら、児童の実態に応じて、児童が見通しをもって、自ら学び、課題を解決することができるような手だてを考えることが大切です。

その際には、次の国の資料が参考になります。

- 「シリーズ作品を読んで、好きなところを紹介しよう」 第2学年「C 読むこと」
『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 国語）』（2011, 国立教育政策研究所），p.69
- 「ファンタジーを読み、感想を述べ合う事例」 第4学年「C 読むこと」
『言語活動の充実に関する指導事例集（小学校版）』（2010, 文部科学省），p.45

単元の指導計画を どのように組み立てればよいの？

これらを基に、単元の指導計画を設定します。

次	時	主な学習活動	評価規準及び評価方法
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による本の紹介を聞き、「お気に入りの本の発表会」を開くという学習のめあてをつかむ。 ○動物が主人公の物語のブックトークを聞き、お気に入りの本を選ぶ。〈並行読書〉 	<ul style="list-style-type: none"> ○お気に入りの本の紹介をするために、好きなどころや心がひかれるところを見つけながら読もうとしている。 〔関①〕（発言の内容、行動の様子）
		 <p>単元の導入では、読み聞かせやブックトークなどにより、関連する本の並行読書を位置付けることが考えられます。</p>	
二	1 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の移り変わりの印象的などころや主人公の気持ちの変化に注意しながら、「ごんぎつね」を読む。 ○グループごとに、選んだ場面を繰り返し音読し、場面の様子や主人公の気持ちの変化がよく分かるように、朗読の仕方について話し合い、朗読の練習をする。 ○5・6年生に向けた「ごんぎつね朗読発表会」を開き、それぞれの工夫について、感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の移り変わりの印象的などころや主人公の性格や気持ちの変化を捉えて読んでいる。 〔読②〕（朗読の様子、ワークシートの記述） ○場面の様子がよく分かるように、軽重や速さを工夫しながら朗読し、内容を紹介している。 〔読①〕（朗読の様子、ワークシートの記述） ○修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもっている。 〔言①〕（発言の内容、朗読の様子）
		<p>単元の展開では、単元の発展のところで行う「お気に入りの本の紹介」のために必要な読む能力を身に付けさせるようにします。</p> 	
三	1 5 4	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに紹介するお気に入りの本の中心的な部分を繰り返し音読し、朗読の仕方と紹介の仕方を話し合う。 ○本の紹介の原稿を書き、1～3年生に向けた「お気に入りの本の発表会」の準備をする。（本時） 	<ul style="list-style-type: none"> ○お気に入りの本の紹介をするために、好きなどころや心がひかれるところを見つけながら読もうとしている。 〔関①〕（発言の内容、行動の様子） ○修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもっている。 〔言①〕（発言の内容、朗読の様子） ○場面の移り変わりの印象的などころや主人公の性格や気持ちの変化を捉えて読んでいる。 〔読②〕（行動の様子、ワークシートの記述）
		<p>単元の発展では、お気に入りの場面を繰り返し読み、朗読の仕方と紹介の仕方を考えるという児童の思考が活発に働く場を設定するようにします。</p> 	
四	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「お気に入りの本の発表会」を開いて感想を交流し、学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の様子がよく分かるように、軽重や速さを工夫しながら朗読し、内容を紹介している。 〔読①〕（朗読の様子、ワークシートの記述）

Step 4 授業展開の構想 —どのように教えるか—

単元の目標と評価規準を再度確認し、それらを踏まえた各単位時間の授業展開を構想しましょう。



1 目標を達成した児童の姿を具体的にイメージする。

- 目標に対して「おおむね満足できる」状況（B）と判断する児童の具体的な姿を考えます。
- 「十分満足できる」状況（A）と判断する児童の具体的な姿や「努力を要する」状況（C）と判断される児童の姿を想定します。



2 目標を達成するためにふさわしい授業展開を考える。

- 児童が、この時間で何を学び、何ができるようになればよいかを自覚できるような「めあて」を設定します。
- 本単元で身に付けさせたい力と取り上げる言語活動に結び付く学習活動を考え、授業の流れを構想します。
- 身に付けさせたい力が付けられたかどうかを評価する場面と方法を考えます。
- 身に付けさせたい力が十分付いていない場合の具体的な手だてを考えます。

3 目標達成につながる本時の授業の導入を考える。

- 児童が、目標に向かって課題意識を膨らませることができる「めあて」の提示を考えます。
- 既習事項を想起させたり、教師自身がモデルを示したりして、学習への見通しをもつことができるような工夫をします。

4 板書計画を立てる。

- 児童が、本時の「めあて」を確認し、1単位時間で何を学習したかを振り返ることができる板書を考えます。
- 板書とノート（ワークシート）が対応するようにします。

本時の授業では、何を指導し、何を評価するの？

本時案

(1) 本時の目標

場面の移り変わりの印象的なところや主人公の性格や気持ちの変化を捉えて読むことができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 本時のめあてを確認する。	○「お気に入りの本の発表会」に向けて、「アドバイスをし合って、自分たちの紹介をよりよいものにしよう」と投げかけ、本時のめあてをつかませる。	
アドバイスをし合って、お気に入りの本の紹介をよりよいものにしよう。		
2 1～3年生に紹介するお気に入りの本を発売し合い、意見を交流する。 	○発表するときのポイントを確認し、お薦めの場面やお気に入りの人物の紹介の仕方などを工夫することを理解させる。 【発表するときのポイント】 ①紹介したい気持ちが伝わるように。 ②紹介を聞いた人が読んでみたいという気持ちになるように。 ○発表を聞くときポイントを確認し、何に気を付けて聞き、どのようなアドバイスをすればよいかを理解させる。 【聞くときのポイント】（「紹介の仕方の工夫」等を観点に。） ①紹介したい気持ちが伝わってくるか。 ・お薦めの場面とその理由 ・お気に入りの人物とその理由 ②聞いた人が読んでみたいという気持ちになるか。 ・紹介の仕方（続きを読みたくなるような言い方） ③もっと知りたいと思ったことはないか。 など	 
3 アドバイスを基に紹介の仕方を見直す。 	○他の児童から付箋紙に書いてもらったアドバイスを基に、どのようにすればよりよい発表になるかを話し合わせ、より相手意識を明確にした紹介ができるようにワークシートを書き直させる。 【Cと判断した児童への手だての例】 他のグループから、どの部分についてどのようなアドバイスがあったのかを一緒に確認し、具体例を示しながら見直しのポイントをつかませる。 【Aとなるようにするための手だての例】 複数の場面から具体的な叙述を取り上げさせ、変化する人物の気持ちに着目させながら紹介したい理由を明らかにするよう助言する。	◎場面の移り変わりの印象的なところや、主人公の性格や気持ちの変化を捉えて読んでいる。 [読む能力] (行動の様子、ワークシートの記述) 【Bの状況】 お気に入りの本のお薦めの場面や人物などについて、具体的な叙述を挙げながら、理由を明らかにして朗読したり、紹介したりしている。
4 本時のめあてを振り返り、次時への見通しをもつ。	○アドバイスを基に見直したことについて、数名の児童に発表させながら本時のめあてを振り返り、次の時間の「お気に入りの本の発表会」への見通しをもたせる。 	

Step1 単元（題材）目標の設定 —何を教えるか—

第3学年の授業を例に、授業づくりの流れを説明します。

1 学習指導要領で示された目標及び内容を確認する。

●第3学年の内容

〔C 図形〕

C(1) 二等辺三角形，正三角形などの図形

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素に着目し、図形について理解できるようにする。

ア 二等辺三角形，正三角形について知ること。

イ 角について知ること。

ウ 円，球について知ること。また，それらの中心，半径，直径について知ること。

〔算数的活動〕

エ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスを用いて作図する活動

『小学校学習指導要領解説 算数編』（2008，文部科学省），p.106



学習指導要領に示された内容は、当該学年の児童が身に付けなければならない最低限のことです。

2 評価規準の設定例を基に、評価規準を設定する。

「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」の評価規準の設定の仕方について説明します。

【「C 図形」の評価規準の設定例】

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りから，二等辺三角形や正三角形を見付けようとしている。 二等辺三角形や正三角形を作図したり，構成したりしようとしている。 二等辺三角形や正三角形で平面を敷き詰める活動を楽しみ，できる模様的美しさや平面の広がり気配に気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 三角形について，その違いに気付き分類し，分類した三角形の特徴を見いだしている。 二等辺三角形や正三角形を観察したり，折ったり重ねたりすることを通して，二等辺三角形や正三角形の性質を見いだしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定規とコンパスを用いて，二等辺三角形や正三角形を作図することができる。 二つの角を重ねることによって，角の大きさが同じかどうかを調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形や正三角形の意味や性質について理解している。 二等辺三角形や正三角形で平面を敷き詰めて，敷き詰めた図形の中にいろいろな形を認めたり，できる模様的美しさを感じたりするなど，図形についての豊かな感覚をもっている。 一つの頂点から出る2本の辺が作る形を角ということを理解している。

『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校 算数）』（2011，国立教育政策研究所），p.39～40

ここで単元の評価規準を設定しますが、Step3で単元の指導計画を設定する際に、適宜見直すことが大切です。



算数の授業では、何を指導し、何を評価するの？

「C 図形」の内容の概観（一部抜粋）

学年	図形についての理解	図形を構成する要素	図形の見方や調べ方
第1学年	・身の回りにあるものの形		・観察や構成などの活動 ・前後、左右、上下などの言葉
第2学年	・三角形、四角形 ・正方形、長方形、直角三角形 ・箱の形をしたもの	・直線、直角、頂点、辺、面	・観察や構成などの活動 ・辺の長さを調べる ・構成要素に着目する ・直角に着目する
第3学年	・二等辺三角形、正三角形 ・円、球	・角、中心、半径、直径	・観察や構成などの活動 ・辺の長さを比べる ・構成要素に着目する ・角の大きさに着目する
第4学年	・平行四辺形、ひし形、台形 ・立方体、直方体	・対角線、平面	・観察や構成などの活動 ・直線などの平行や垂直の関係 ・見取図や展開図をかく ・ものの位置を表す

『小学校学習指導要領解説 算数編』（2008、文部科学省）、p.40～41

本単元と関連のある内容は何かを知るだけでなく、どのような力（見方や調べ方）を身に付けてきたか、また、それがこの先どのように発展するかなどを把握することが大切です。



目標及び内容、評価規準の設定例を基に、単元目標と単元の評価規準を設定します。

1 単元名 三角形

2 単元目標

- 合同な二等辺三角形や正三角形を敷き詰めて、美しい形をつくろうとしたり、進んで作図や構成をしたりしようとするができる。【関心・意欲・態度】

Keyword

- 辺の長さによる三角形の分類の仕方を考えたり、三角形の弁別について二等辺三角形や円の性質を基に筋道立てて考えたりすることができる。【数学的な考え方】

- 定規とコンパスを使って、二等辺三角形や正三角形を正しくかくことや、二つの角を重ねることによって、角の大きさが同じかどうかを調べることができる。【技能】

Keyword

- 二等辺三角形や正三角形の意味や性質、角の意味を理解したり、合同な二等辺三角形や正三角形で平面を敷き詰めて、敷き詰めた図形の中にいろいろな形を認める、図形についての豊かな感覚をもったりすることができる。【知識・理解】

3 単元の評価規準



学習指導要領解説に示されている学習指導の **Keyword** を単元目標等に明示しましょう。

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・二等辺三角形や正三角形を作図したり、構成したりしようとしている。 ・二等辺三角形や正三角形で平面を敷き詰める活動を楽しみ、できる模様の美しさや平面の広がり気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辺の長さによる三角形の分類の仕方を考え、分類した三角形の特徴を見だしている。 ・三角形の弁別について、二等辺三角形や円の性質を基に筋道立てて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定規とコンパスを用いて、二等辺三角形や正三角形を作図することができる。 ・二つの角を重ねることによって、角の大きさが同じかどうかを調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二等辺三角形や正三角形の意味や性質について理解している。 ・合同な二等辺三角形や正三角形で平面を敷き詰めて、敷き詰めた図形の中にいろいろな形を認める、図形についての豊かな感覚をもっている。 ・一つの頂点から出る2本の辺が作る形を角ということを理解している。

Step 2 児童観の明確化 —どのような実態か—

1 単元に関する児童の実態（学習到達状況）を確認する。

第2学年 単元別たしかめテスト13

小学校第2学年 単元別たしかめテスト 13

単元名 (三角形と四角形 (森林組)) (三角形と四角形 (東京書籍)) (三角形と四角形 (学校図書))	①② (/ 2)	③④ (/ 2)	⑤~⑧ (/ 8)	得点 (/ 9)
2年 () 組 () 番 名前 ()	知識・理解	技能	考え方	

○ つぎの 形を 三角形と 四角形に わけましょう。

○ つぎの もんだいに こたえましょう。

○ つぎの 点と点を 直線で つないで 三角形と 四角形を 1つずつ かきましよう。

○ 下の 四角形の 紙を 2つに きります。つぎの 形を つくるとき どこを きればよいでしょう。 きるところに 直線を 一本かきましよう。

○ つぎの もんだいに こたえましょう。

○ まさこさんは 「②と④は 三角形でもなく 四角形でもない 形ね。」と いいました。まさこさんの いっていることは 正しいですか こたえましよう。 また そのわけも かきましよう。

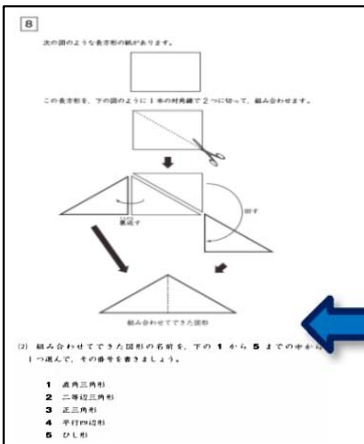
(正しい 正しくない)
(わけ)

「数学的な考え方」「技能」「知識・理解」の観点で診断テストを実施することが考えられます。学習到達状況を把握するには、「学習到達度確認テスト」が有効です。



『学習到達度確認テスト (小学校算数)』 (2010, 岡山県教育庁義務教育課)

全国学力・学習状況調査の「C 図形」に関する調査問題 (第3学年までの内容を含むもの)



年度	問題番号	設問の概要
19	B 5-2	A地点からB地点まで進む2つの経路について、どちらの道のりが長いかわかる
20	B 1-1	ドアを開け閉めすると、置いた物がドアに当たってしまう場所を正しく表している図を選ぶ
21	A 5-2	長方形を1本の対角線で切ったときにできる図形の名前を選ぶ
21	B 1-1	壁の高さを階段を使って調べるために必要な情報を選び、求める式を書く
21	B 1-3	長方形の紙に描かれた6つの円の半径の求め方について、長方形の縦の長さを使った求め方を基に、横の長さを使った求め方を書く
22	A 8-2	長方形を1本の対角線で切ったときにできる図形の名前を選ぶ
22	B 2-1	本立ての部品の図を見て、どのような長方形かを書く
22	B 6-1	バスのドアの下にできる三角形について、その名前を選び、そのわけを書く
23	B 3-3	長方形の紙を折ってできた四角形が、どのような図形かを書く
24	A 7	示された半円を描くために、コンパスの針を刺す場所と、コンパスの開いている長さを答える

『平成22年度全国学力・学習状況調査 小学校算数A』 (2011, 文部科学省)

全国学力・学習状況調査の問題も診断テストとして活用することが可能です。上記の問題は第2～4学年の指導内容です。



児童の実態を どのように把握するの？

〔診断テストの結果の例〕

評価規準	観点	正答率
三角形の意味を理解している	知	88%
直角三角形の意味を理解している	知	92%
点と点をつないで三角形をかくことができる	技	99%
示された条件にしたがって、直角三角形をかくことができる	技	94%
四角形の対角線を引いて二つの三角形を作ることができる	技	91%
図の中から三角形を見付けることができる	考	78%
定義を基に、図形が三角形でも四角形でもないことを判断し、そのわけを説明することができる	考	67%

2 指導上の立場（児童観）を明確にする。

【Before】

指導上の立場

○児童観

本学級の児童は、明るく素直で、与えられた課題に対してまじめに取り組むことができる。また、基本的な計算練習や操作的・体験的な活動を好み、進んで取り組むことができる。しかし、筋道立てて説明することを苦手とする児童が少なくない。児童はこれまでに三角形（直角三角形）や四角形（正方形、長方形）の学習をしているが、おおむね定着している。

本単元と系統性がある指導内容に関する学習状況を評価の観点別にまとめるとともに、課題に対する手だても明らかにする必要があります。



【After】

指導上の立場

○児童観

本学級の児童は、基本的な計算練習や操作的・体験的な活動を進んで行うなど、算数の学習に意欲的に取り組む児童が多い。しかし、自分の考えを筋道立てて説明することを苦手とする児童は少なくない。

既習事項である「三角形」「直角三角形」の学習の定着状況については、図形の意味理解や作図の技能はおおむね定着しているが、□名の児童が努力を要する状況にある。また、複数の図形から三角形を見付けることはできるが、その理由を筋道立てて説明することについては、無回答の児童が□名、不十分な説明の児童が□名いた。

これらの結果から、操作的活動を通して図形の定義や性質を実感的に理解させるとともに、定義や性質の振り返りをさせながら、判断の根拠を明らかにして説明する活動を多く設定するようになりたい。特に、モデルとなる説明を板書したり復唱させたりすることに重点を置きたいと考える。

算数科についての全体的な学習状況

観点別の学習状況

課題への手だて

Step 3 単元観・指導観の明確化 —どのように組み立てるか—

1 単元の目標や児童の実態を基に、指導計画を構想する。

ア 二等辺三角形，正三角形

辺の長さに着目して，三角形の特徴をとらえられるようにする。二辺の長さが等しい三角形を二等辺三角形といい，三辺の長さが等しい三角形を正三角形という。そして，定規やコンパスによる作図などの活動を通して，二等辺三角形や正三角形について理解できるようにする。また，二等辺三角形では，二つの角の大きさが同じであることや，正三角形では，三つの角の大きさが同じであることを確かめるようにする。これは，二等辺三角形や正三角形を観察したり，実際に紙を切り抜いて作った三角形を折ってみたりするなどの活動を通して，確かめることができる。

意味（定義）

性質

例示された活動

『小学校学習指導要領解説 算数編』（2008，文部科学省），p.106

学習指導要領解説を基に，数量や図形の意味（定義）や性質等とそれらを児童自身が身に付けることができるようにするための指導方法（例示された活動）を捉えておくことが大切です。



2 指導の工夫や手だてを明らかにする。

4 学習指導に当たって

① 基本的な平面図形を算数の用語を使っただけに表現できるようにする

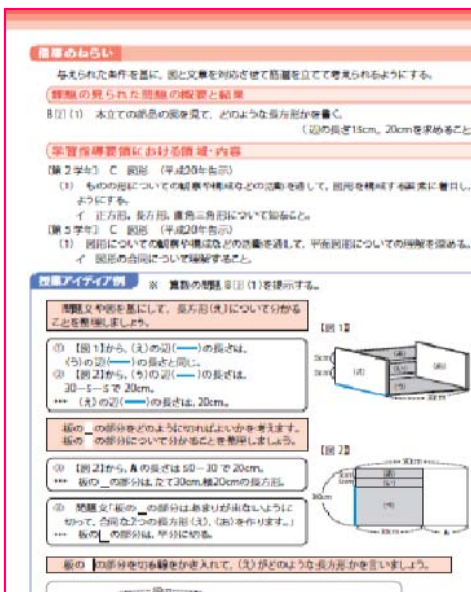
（略）

指導に当たっては，基本的な平面図形をかいたり作ったりする場面で，辺を表す言葉や長さ，角の大きさ，図形の名称を用いて，図形を言葉で表現し伝え合う活動を取り入れ，曖昧な表現でなく図形を的確に表現できているかを確認することが考えられる。

② 問題に示された数値や条件を基に筋道を立てて考えることができるようにする

（略）

指導に当たっては，条件に照らし合わせて筋道を立てて考え，得られた数値などを図に書き入れ，結論に至る思考過程を記録したり説明したりする活動を取り入れ，何が根拠になっているのかを意識できるようにすることが考えられる。



『平成22年度全国学力・学習状況調査（小学校）の結果を踏まえた授業アイデア例』（2010，国立教育政策研究所教育課程研究センター），p.9

『平成22年度全国学力・学習状況調査（小学校算数）解説資料』（2010，国立教育政策研究所），p.59



国が示している上の二つの資料には，学習指導のポイントが示されています。指導観を深めるための参考資料として活用することができます。・学習状

単元の指導計画を どのように組み立てればよいの？

これらを基に、単元の指導計画を設定します。

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	考	技	知	
一	1	・ストローで三角形を作る。	◎				・ストローを使っていろいろな三角形を構成しようとしている。 (行動の様子)
	2	・ストローで作った三角形を分類する。(本時) 【二等辺三角形, 正三角形】		◎			・辺の長さによって三角形の分類の仕方を考え、分類した三角形の特徴を見いだしている。 (ノートの記述, 発言の内容)
	3	・コンパスを使った二等辺三角形, 正三角形のかき方について考え, 作図する。 例示された活動	○		◎		・二等辺三角形や正三角形を作図しようとしている。 (行動の様子) ・定規とコンパスを用いて, 二等辺三角形や正三角形を作図することができる。 (ノートの記述, 行動の様子)
	4	・円や色紙を使って三角形をつくる。 例示された活動	◎		◎		・二等辺三角形や正三角形を作図したり, 構成しようとしている。 (作品, 行動の様子) ・三角形の弁別について二等辺三角形や円の性質を基に筋道立てて考えたりすることができる。 (ノートの記述, 行動の様子)
二	2	・二等辺三角形や正三角形の角の大きさを比べる。 例示された活動			◎	○	・二つの角を重ねることによって, 角の大きさが同じかどうかを調べることができる。 (作品, 行動の様子) ・二等辺三角形では二つの角の大きさが等しく, 正三角形では三つの角の大きさが等しいことを理解している。 (ノートの記述)
三	1	・「たしかめ道場」の問題を解く。 総括的評価			◎	◎	・定規とコンパスを用いて, 二等辺三角形や正三角形を作図することができる。 (ノートの記述, 行動の様子) ・二等辺三角形や正三角形の意味や性質について理解している。 (ノートの記述, 発言の内容) ・半径が同じ二つの円を使ってかいた三角形が二等辺三角形になることを, 二等辺三角形や円の意味を基に考えている。 (ノートの記述)

意味 (定義) を知る

例示された活動

例示された活動

意味 (定義) の理解を深める

性質を知る

総括的評価

総括的評価の際に用いるテスト等を基に、単元末までに何が出来る(分かる)ようにしておく必要があるのか、具体的な内容で確認することも大切です。・学習状

Step 4 授業展開の構想 —どのように教えるか—

目標の達成を目指した授業展開を構想するためには、終末からさかのぼって考えることが大切です。



1 本時の目標を具体化した児童の姿とまとめを考える。

- まとめに入るキーワードを考えます。
- 何を用いて（言葉、数、式、図など）、どのように表現していればよいかを考えます。
- 「十分満足できる」状況（A）も考えます。
- 色を変えたり吹き出しで示したりしてキーワードを強調した板書計画を作ります。

2 児童が考えをもったり深めたりする活動とその指導・支援を考える。

- 児童の考えを予想します。
- 「努力を要する」状況（C）と判断した児童への手だてと「十分満足できる」状況（A）となるようにするための手だてを考えます。
- 集団解決の場面での発表の順序や考えを収束・収れんさせるための発問を考えます。
- どのような適用問題を提示するかを考えます。
- 自力解決の見通しをもたせる場面で、学習活動（何を用いて）、解決方法（どのように考えて）、結果（答えは何になる）のどれを尋ねるか考えます。

3 まとめに対応した「めあて」を考える。

- 課題解決の場面において児童が主体的に課題解決し、まとめに示しているものを見いだしていこうとするような「めあて」の言葉を考えます。
- 提示した問題から児童自身が「めあて」をもつことができるようにするための発問等を考えます。

4 児童の興味・関心を高める問題提示を考える。

- 体験的活動、生活経験との関連付け、既習事項と未習事項との比較などの工夫を考えます。
- 問題が児童の実態等に適応しているか確認します。

本時の授業では、何を指導し、何を評価するの？

本時案

(1) 本時の目標

辺の長さによる三角形の分類の仕方を考え、分類した三角形の特徴を見いだすことができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 ストローで作った三角形を確認する。 〈問題提示〉 2 本時のめあてをつかむ。〈課題把握〉	○できた三角形を紹介させながら、それらの中に板書に示すあ～けの三角形があることを確認させる。 ○あ～けの三角形を概観させ、色別の長さになったストロー、つまり、辺の長さに着目すると分類できそうなことを確認させた上で、次の課題を提示する。	
辺の長さに着目して三角形のなかま分けをしよう。		
3 あ～けの三角形を分類する。 〈見通し・自力解決〉 	○あ～けの三角形のカードを配付して、カードを机上で動かしながら分類することを指示する。 ○児童の主な反応を次のように予想する。 ア) 「ある色が何本使われているか」だけに着目したり、「ある色が使われているかどうか」だけに着目したりするなど、辺の長さとその数を比べることができていない イ) 三角形の形に着目して分類している ウ) 適切に分類できている 【Cと判断した児童への手だての例】 正三角形の仲間を提示してストローの色を見て気が付くことを尋ねたり、「同じ色のストローが何本使われているか」の観点を提示したりする。 【Aとなるようにするための手だての例】 それぞれの仲間を『辺の長さ』という言葉と数を用いて説明すると、どのような三角形の仲間と言えるかと投げかけ、ノートに記述するよう指示する。	◎辺の長さによる三角形の分類の仕方を考え、分類した三角形の特徴を見いだしている。 [数学的な考え方] (ノートの記述、発言の内容) 【Bの状況】 長さの等しい辺の数に着目して3種類に分類している。 
4 分類した結果について話し合う。〈集団解決・練り上げ〉 	○辺の長さの組み合わせが分かるように、「黄－青－緑」「黄－黄－赤」とカードに書くよう指示する。 ○分類した結果を板書にまとめながら一緒に確認した後、それぞれの仲間を「辺の長さ」という言葉と数を用いて説明するとどのような三角形といえるかについて話し合わせ、次の三つになることを確認させる。 ・二つの辺の長さが等しい三角形 ・三つの辺の長さが等しい三角形 ・辺の長さがすべてちがう三角形 ○三つの分類を確認した上で、二つの辺の長さが等しい三角形を二等辺三角形、三つの辺の長さが等しい三角形を正三角形ということを知らせ、ノートにまとめさせる。	
5 適用問題を解き、本時のまとめをする。 〈まとめ〉	○あ～け以外の三角形で辺の長さに着目して三つの仲間に分けさせることで、理解を深めるようにする。 ○コンパスを使って長さの等しい辺を見付けさせるとともに、長さの等しい辺を赤色で塗るよう指示することで、長さの等しい辺の数に着目しやすくする。 ○本時の学習を振り返り、課題に対応する次の内容をまとめとして確認する。	◎辺の長さによる三角形の分類の仕方を考え、分類した三角形の特徴を見いだしている。 [数学的な考え方] (ノートの記述、発言の内容)
長さの等しい辺の数でなかま分けすると、三角形の中には、二等辺三角形、正三角形という名前の三角形がある。		
○次時は、コンパスを使った二等辺三角形、正三角形のかき方について考えていくことを知らせる。		

学習環境づくり・学級づくりの参考資料



どの子にも分かりやすい教室環境チェックリスト (小学校低学年)

・ 教室前面の黒板の上の壁面には、必要なものだけ掲示している。	<input type="checkbox"/>
・ 黒板の両サイドの壁面には、時間割など年間を通して必要なものだけ掲示している。	<input type="checkbox"/>
・ 教室前面には、提出物のかごなど、必要なものを整然と配置している。	<input type="checkbox"/>
・ 時間割は文字と絵、教科別の色分けなどの工夫をし、分かりやすい配慮をしている。	<input type="checkbox"/>
・ 校外学習や学習発表会などのスケジュールや学習内容を掲示する場所が決められている。	<input type="checkbox"/>
・ 給食、掃除などの当番は、手順や内容、担当者が分かるよう顔写真などで示している。	<input type="checkbox"/>
・ 掃除用具入れには、用具の数や置き場所を文字や絵、数字などで示し、片付け方が分かるように配慮している。	<input type="checkbox"/>
・ 掃除の手順支援として、床や壁面に「何をどこまでするか」をマークや文字で表示している。(掃除箇所の範囲、始まりと終わりなど)	<input type="checkbox"/>
・ ゴミ箱は、分別の種類を絵や文字で表示している。	<input type="checkbox"/>
・ 個人ロッカーは、整理の仕方を絵で示して確認できるようにしている。	<input type="checkbox"/>
・ 机の中に片付ける物の配置などを絵や写真で示している。	<input type="checkbox"/>
・ 支援が必要な子には、机の位置を示すマークが床にテープなどで示している。	<input type="checkbox"/>
・ 一日のスケジュールは確認しやすいよう、教室の前面の黒板や定位置に配置した補助黒板に、必要に応じて写真や絵で教科や場所を示している。	<input type="checkbox"/>
・ 教室後方の壁面は活用の仕方が決めてあり、作品は整然と掲示してある。	<input type="checkbox"/>
・ 必要に応じて、クールダウンエリアを設置するなど、落ち着ける場がある。	<input type="checkbox"/>

この指導資料は、通常学級における特別支援教育について、「学級づくりと授業づくり」のポイントをまとめたものです。



通常学級における特別支援教育の観点から見た学級経営・授業づくり (2009, 岡山県総合教育センター)

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h20/08project01.pdf>



「居場所」をつくる

課題を媒介して関わりを生み出す

教室は子どもと同じ机を使い、教師も同じ視線の高さで聴き合い、話し合う

この字型で「聴き合う」座席配置

声をかけたら、信じて「待つ」

- ・ 落ち着いた声のトーン
- ・ つぶやきを捨てる
- ・ 子どもの発言は他の子どもにつなぐ「どう思う？」

POINT 教師も子どもも互いの顔が見える中で、「聴く」ことを意識し、互いの存在を感じ合える居場所づくりをします。学びに入りやすい子どもには、指導をしつつも自分から学びに入るまで「待つ」姿勢が大切です。

自己存在感を与える

この指導資料は、学び合いを促進する教師の関わりから見えてきた「居場所づくり、関わり合いの援助、子ども理解の工夫」の具体をまとめたものです。



リーフレット「なぜ、あの子が学びに入れたのかー学び合いを促進する教師の関わりー」 (2012, 岡山県総合教育センター)

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h23/11-03leaf.pdf>

授業のやくそく「これだけは！」

【準備】

・休み時間に次の学習用具を準備する。

【書く】

・鉛筆を正しくもって書く。

【返事】

・名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。

【姿勢】

・正しい姿勢で学習する。



岡山県マスコット ももっち

この指導資料は、学習規律を、「授業規律（授業での約束・学び方）」と「生活規律（学校生活でのきまり、約束・ルール）」に分け、それぞれの取り組み例を掲載しているものです。



学習規律実践事例集（2013，岡山県教育庁義務教育課）

http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/353191_1820007_misc.pdf

わかりやすく教えるための
毎日 気軽に ICT活用！

保存版

ハンドブック

このハンドブックでの「ICT」=すべての先生方が「ぼっど」を使って、わかりやすく教えるための「便利な道具」のこと。

- Case 1 “指示” を大きく映す
- Case 2 “動き” を大きく映す
- Case 3 “スモールステップ” で大きく映す
- Case 4 “書き込みながら” 大きく映す
- Case 5 “部分を隠して” 大きく映す
- Case 6 “フラッシュ型教材” を映す
- Case 7 “デジタルコンテンツ” を映す

岡山県内の小・中・高等学校の7名の先生方の“授業中にICTを活用して指導している事例”を集めました。わかる授業づくりや校内研修のヒントに役立ててください。

岡山県総合教育センター

“指示” を大きく映す

小学校 算数 第4学年 「式のきまり」

ワークシートを提示して、音読するよう指示する

指導のポイント

- (1) 児童（生徒）と同じ教科書（ワークシート）の設問を映す。
- (2) 前を見て、音読するよう指示する。
- (3) ポイントを説明し、線を引いて見せ、同じ箇所に線を引くよう指示する。

この指導資料は、岡山県内の小・中・高等学校の7名の先生方の“授業中にICTを活用して指導している事例”を集めたものです。



保存版 日常的に気軽にICT活用ハンドブック（2009，岡山県総合教育センター）

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/study/h21/09-08handbook.pdf>

■ 実践事例提供者 鏡野町立鶴喜小学校指導教諭 植月 三知恵
美咲町立旭小学校教諭 長子谷 幸一

■ 研究委員
岡山県総合教育センター
教科教育部長 前田 敦子
指導主事 塩崎 弘之 大谷 忠宏 植月 慎二 河本 尚
西林 哲郎 中川 雅之 福田 知子 川添 賢一
田中誠一郎 堤 麻理子 久次 正浩 中川 泰輔
大塚 康広 大久保三月 片岡 一公 井元 重文

平成26年2月発行 授業づくりの基礎・基本（実践編）小学校版
—学校全体で授業改善に取り組むために—
【編集兼発行所】 岡山県総合教育センター
〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7545-11
TEL：0866-56-9101 FAX：0866-56-9121
URL：http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/
E-mail：kyouikuse@pref.okayama.lg.jp

* 本文掲載イラストは、当センター指導主事 平田朝一作成のものを使用しています。

お問い合わせ 教科教育部 TEL 0866-56-9103 Copyright © 2014 Okayama Prefectural Education Center

授業づくりのためのチェックリスト

学校全体で授業改善に取り組むためには、授業者と参観者で授業づくりの視点の明確化、共有化を図ることが大切です。チェックリストを活用して、授業づくりの視点に基づいた協議を行い、授業改善を目指しましょう。

◆本時の授業・・・授業の流れに沿って確認しましょう。

★本時の「めあて」が提示されているか。 (例) 導入時に本時の「めあて」を確認し、何を学ぶのかを児童につかませている。
児童の興味・関心を高めるための導入の工夫がなされているか。 (例) 生活経験や既習事項と本時の学習内容を関連させながら、学習への期待感を高めている。
児童に学習の見通しをもたせるための工夫がなされているか。 (例) 教師がモデルを提示するなどして、何をどのように学ぶのかを具体的に示している。
適切な指示・説明・発問が行われているか。 (例) 何のために、何を、どのようにするのかを具体的に指示している。
新たな気づきを促したり、多様な考えを引き出したりする発問が行われているか。 (例) 考えを交流させたり、再検討を促したりする発問がなされている。
板書は、授業内容を構造的で分かりやすく示すものになっているか。 (例) 本時の「めあて」を確認し、何を学習したのかを振り返ることのできる板書になっている。
机間指導により、一人一人の学習状況を把握し、指導に生かしているか。 (例) 児童のつまずきに対応した言葉かけ等を、状況に応じて個別に行っている。
展開に応じて、グループ活動やペア学習などを効果的に取り入れているか。 (例) 対話を促進する課題が提示され、活動内容が本時の「めあて」の達成につながっている。
目標を達成するためにふさわしい教材・教具が使用されているか。 (例) 実態に応じた教材が吟味され、具体物、写真、ICT機器等が効果的に活用されている。
児童が自分の思いや考えを説明することのできる場を設定しているか。 (例) 説明するための話型や方法の指導がなされ、聴き合える集団づくりがなされている。
評価の場面において、適切に評価が行われているか。 (例) A、B、Cそれぞれの状況が具体的に想定され、適切な方法で評価がなされている。
振り返りの時間を確保し、児童に学習の成果を自覚させているか。 (例) 何を学んだのかを自覚できる振り返りを行い、児童の記述に対する朱書きがなされている。
★本時の「めあて」と整合性のあるまとめがなされているか。 (例) 本時の「めあて」と整合するまとめを、児童が自分の言葉で表現することができている。

※ 授業者へのコメント等